入力例 会計上と税務上の連結法人税個別帰属額に差額がある場合の入力例(連結子法人)

以下は、前期分の連結法人税個別帰属額等について、会計上と税務上の金額に差額がある場合の入力例です。 前期・当期ともに、中間申告は行っていないものとします。

なお、当入力例は、処理の一例です。実際に入力する際は、各企業の処理方法に基づいて入力してください。

(1) 前期黒字・当期赤字の場合

① 会計処理

1) 前期分

子法人Dは、前期確定分の連結法人税個別帰属額等(80,000円)を当期に親法人Pへ支払いました(前期 末の会計上の未払金残高は100,000円)。また、未払金の残額20,000円を取り崩しました。

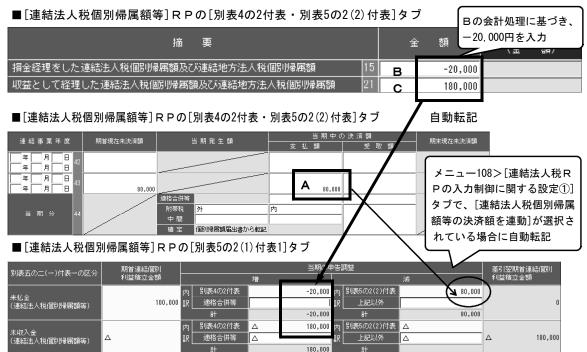
(借)親会社未払金	80,000	(貸)現金及び預金	80,000	Α
(借)親会社未払金	20,000	(貸)法人税、住民税及び事業税	20,000	В

2) 当期分

子法人Dは、親法人Pから受け取る当期確定分の連結法人税個別帰属額等(180,000円)を、未収入金として計上しました。

(借)親会社未収入金 180,000 (貸)法人税、住民税及び事業税 180,000 C
--

② 入力画面



③ 別表処理

上記②のように入力した場合の別表処理は、次のとおりです。

別表4の2付表

区分		総額	留 保	社外流出	
加算	損金経理をした連結法人税個別帰属額等	15	△20, 000	△20,000	
減算	収益として経理した連結法人税個別帰属額等	21	180,000	180,000	

別表5の2(1)付表1

区分	期首利益積立金額	減	増	翌期首利益積立金額
未払金(連結法人税個別帰属額等)	100,000	80,000	△20,000	0
未収入金(連結法人税個別帰属額等)			180, 000	180,000